

平成30年度兵庫県児童発達支援管理責任者研修 「演習事例」及び事前課題についての案内

【 はじめに 】

本研修は、児童発達支援管理責任者の役割を学ぶ研修です。個別支援計画を管理していくことも、大切な児童発達支援管理責任者の役割の一つです。今回の研修では個別支援計画を立てるための、また、立てたものを管理するための役割を学んでいただきます。

《 事前課題 》

- ① 演習の際に、各班内で1分間の自己紹介を行います。課題1の自己紹介シートを記入し、1分間で自己紹介できるようにまとめてください。尚、項目④については、研修終了後に記入する時間を設けておりますので、現時点では、空白にしておいてください。（※研修当日に持参、受付で確認）
- ② 「演習：個別支援計画の作成 事例概要」の大切な語句や文章だと感じられたところに赤線を引いてください。発表等、受講者間での共有はしません。（※ 研修当日に持参、受付で確認）
- ③ 「演習：個別支援計画の作成 事例概要」から読み取れる、本人及び家族の強み（ストレングス）と、本人及び家族の困っていることをあげる（※10月29日(月)までに郵送先へ郵送）
- ④ 「演習：個別支援計画の作成 事例概要」を読み込んで、演習で「個別支援計画書」を作成することを前提に、「課題（ニーズ）の整理表」を作成してください。その際、「課題の整理表作成時の留意点（例）」を参考にしてください。（※10月29日(月)までに郵送先へ郵送）

《 当日の提出様式 》

- ・ 別紙、事前課題①、②（※研修当日、朝の受付で確認のみします。）

《 郵送による提出様式 》

- ・ 別紙、事前課題③提出様式（手書き可）（※10月29日(月)までに次ページ郵送先へ郵送）
- ・ 別紙、事前課題④提出様式（手書き可）（※10月29日(月)までに次ページ郵送先へ郵送）

事前に事例のイメージを持ち研修に臨んでいただくために、「演習：個別支援計画の作成 事例概要」をしっかりと読み取っていただき、大切な語句や文章だと感じられたところに赤線を引いてください。

さらに、事例概要から「本人及び家族の強み(ストレングス)と、本人及び家族の困っていること」を別紙、事前課題③提出様式に箇条書きで記載してください。また、演習で「個別支援計画書」を作成することを前提に、「課題（ニーズ）の整理表」を別紙、事前課題④提出様式で作成してください。「課題（ニーズ）の整理表」の記入については、平成30年度兵庫県サービス管理責任者研修【共通講義】（平成30年9月7日）「サービス提供のプロセスと管理」での学びや、「課題の整理表作成時の留意点(例)」を参考としてください。

留意事項

※「演習：個別支援計画の作成 事例概要」は、本研修のために事務局で作成した
ものですが、実際の事例を基にしておりますので、取り扱いにはご配慮ください。

※児童発達支援管理責任者研修の申込みの際に、推薦理由を記載した申し込み責任者の方に、作成した事前課題の全てを確認していただき、各様式に署名と押印をしていただいてから郵送してください。

※締切日：平成30年10月29日（月）必着を過ぎた事前課題は、一切受付できず、受講継続も認められませんので、お気を付けください。

【宛先】 ※課題③、④のみ

〒651-2181

神戸市西区曙町1070

総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり研究所 研修課

「**児童発達支援管理責任者研修 事前課題在中**」(朱書き)

【問合せ先】

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

総合リハビリテーションセンター

福祉のまちづくり研究所 研修課

TEL 078-927-2727(代) (内線 3712) 担当：谷垣

自己紹介シート

課題 1

整理番号

氏名

演習時にグループ内で自己紹介をします。1分以内に自己紹介が出来るようにアピールの要点をまとめてください。以下の項目を参考に、あなたらしさをお伝えください。ただし時間厳守です。また、「どのような児童発達支援管理責任者になりたいですか」の項目については、研修受講前のみ記入していただき、研修終了後に改めて記入いただくことで、研修受講前と後で、どのように変化したかを捉えていただきます。

お 名 前		出 身 地	
勤 務 先		経 験 年 数	
得 意 な こ と		苦 手 な こ と	
①福祉の仕事に就いた動機・原点			
②実は私〇〇なんです。(趣味や自慢したいこと等)			
③どのような児童発達支援管理責任者になりたいですか。			
④研修を終えて、どのような児童発達支援管理責任者になりたいですか。 <u>「研修受講後に記入しますので、事前課題の時点では、空白にしておいてください」</u>			

郵送の必要はありませんので、該当する演習初日にご持参ください。

上記内容を確認しました。 申し込み責任者 氏名 印

平成 30 年度兵庫県児童発達支援管理責任者等研修 事例
大切な語句や文章に赤線を引いてください。
郵送の必要はありませんので、各演習初日にご持参ください。

演習：個別支援計画の作成
事例概要

事例 A（10月）

- ・ 地域の中学校（特別支援学級）に通う女子 14 歳（20XX 年 5 月生まれ）
- ・ 以前から定期的に相談支援事業所（なでしこ学園）に母が相談している
- ・ 週末に移動支援（スマイル）利用中
- ・ 診断名 知的障害をとまなう自閉症スペクトラム障害

主訴（10月、14歳5ヶ月時の様子）

- ・ 見通しが持てないと不安感が強い。
- ・ 感情のコントロールが難しい。
- ・ 言語の理解はシンプルにわかりやすく説明すると理解できる。
- ・ 注目されることは好きで、人前で話すことも物おじせず得意である。また、クラスの役割なども積極的に引き受けている。
- ・ 食べることが満たされるとうれしい。過食気味で早朝、深夜にコンソメの固形やコンソメ顆粒やカレールー、シチュールーやお菓子などの食べ物と飲み物（カフェラテ等）を暴飲暴食してしまい、台所を散らかす。
- ・ 夜中にほしい飲み物がないと近くのスーパーに行って買うこともある（オートロックのため帰宅はよそのチャイムを鳴らして開錠してもらうこともあった）。
- ・ 小学 5 年生の時にてんかん発作があり、救急搬送された。その後、服薬調整により落ち着いている。
- ・ 母は就労と子育てのしんどさ、母を困らせることが多い本人との関係性にストレスがある。
- ・ 来年大学受験にある姉の勉強の環境が本人によって乱されている。
- ・ 暇があれば指にビニールをはさんで動かしてその感覚を楽しんでいる。それに没頭すると表情が陰しくなり、また、周囲の声掛けや促しに応じにくくなる。

プロフィール

成育歴

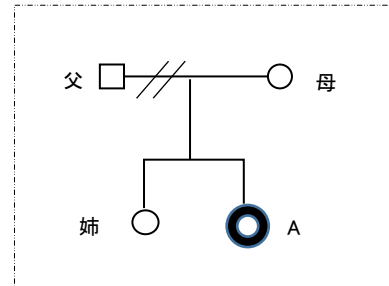
在胎-40 週、体重-3,010 g、分娩時異常なし。食欲も旺盛だった。あやしても笑わず、人見知りがなかった。独歩の遅れもあり。1 歳 6 ヶ月、3 歳児健診時に母親は発達について気になっていたので相談するが、「様子を見ましょう」と言われた。4 歳になって母親が自ら大学病院に発達の相談をしたときに「精神発達遅滞・自閉症スペクトラム障害」と診断されて、療育手帳を取得した。

その後、保育所の利用を経て、地域の小学校、中学校へと進学した。小学 4 年生で、移動支援の利用も開始した。

家庭では、夜中に暴飲暴食を繰り返し、また、ほしいものがないと勝手に外に出てほしいものを購入することが続き、何度注意してもおさまらず、余計に反抗的な態度になっていく様子を見て、A が 9 歳の頃から母が定期的に利用している「なでしこ学園（相談支援事業所）」に相談したところ、地域の様々な資源を教えてもらい、近くの多機能型事業所「はばたん（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）」を見学し、11 月より、週に 3 回（月・木・金）、放課後等デイサービスを利用することになった。

家族構成

母、姉（高校 3 年生）、A



家族の状況

母 A が幼少期に離婚し、現在は会社員。月～土は仕事で忙しく、A さんの行動には困っている

姉 母、A と同居しているが、A とは折り合いがよくなく、姉の部屋に勝手に入ってしまう A をきつく注意することがあり、A も警戒している。

祖父母 遠方に暮らしており、A が 2 歳の誕生日以降会っていない。

他機関利用状況

3 歳 健診で母が発達について相談したが、「様子を見ましょう」となった。

4 歳 大学病院にて、「精神発達遅滞・自閉症スペクトラム障害」の診断を受ける。

5 歳 両親が離婚。母の就労により、保育所に入所。

6 歳 地域の小学校の特別支援学級に通学を開始する。

9 歳 母が「なでしこ学園（相談支援事業所）」へ行き、福祉サービスの情報提供等も含めて生活相談を開始。

10 歳 週末に移動支援（スマイル）を利用開始。

12 歳 地域の中学校の特別支援学級に通学を開始する。

他機関からの情報

（地域の中学校の現状）

入学時は、環境に慣れず、机にうつむいて過ごすことが多く、勉強を促すと大声を出したり、床に頭を何度も打ちつける自傷行動が見られたが、慣れてくると、自分のできる勉強については促せば取り組めるようになってきた。普通学級には友達はおらず、支援学級に在籍している生徒とは、自分の好きな話題などでは積極的に関わる様子があるが一方的

にしゃべってしまったりするなど、相手のペースに合わせて話をすることが難しい時もあるので、先生が間に入って調整をしている。支援学級の中では、プリントを配ったりするなど、積極的に役割を果たし、褒められるとうれしそうにしている。ほしいものがあると、友達の物でも盗むことがあり、それに自分の名前を書いて自分のものだと言張することがある。その都度注意するが、たびたびこういった状況になることがある。過去にはそのことで、友達関係が悪化することもあった。先生との関係については、支援学級担当の T 先生は、1 年生の時からの持ち上がりで担任をしており、この先生との関係は比較的良好であるが、その他の先生については本人の抵抗がある様子。特に勉強や授業の促しをする際には、T 先生の促しにしか応じないことも多い。

（移動支援の現状）

小学 4 年生から利用を開始し、月に 2～3 回程度週末にヘルパーと外出している。A は外出を楽しみにしており、ヘルパーとは、公共交通機関（電車やバス）を利用して、大きな商業施設で様々なものを見て回ったり、ゲームセンターで遊ぶことが好き。また、外食も好きで、昼食は A が選んだお店で食事を摂っている。特に缶コーヒーが好きで、多量に欲しがることがあったため、外出時(1 日)の予定を文字と写真で示しながら本人と確認し、自宅に帰る前に 1 本購入して飲むように決めることで、納得して外出を楽しんでいる。

アセスメント

日常生活における領域

着脱	上着、ズボン、スカートなどは着脱できる。小さなボタンなどは、やや不器用なためできないことがある。季節、気温に合った服を選ぶことはできない。
食事	普段は、はしを使って食べているが、不器用で食べこぼしなどもみられるため、スプーンなどを使用することもある。
排泄	排泄はトイレでできるが、ギリギリになっていくことが多いため、失敗してしまうことがある。排便については、拭き取りが不十分なため、介助が必要。
入浴	一連の流れは知っており、自分ですが、不十分なため、介助が必要。
睡眠	夜中にひとりで起きて、台所に行き、食べ物を探したり、飲食しているため、まとまった睡眠はとれていないことが多い。
コミュニケーション	基本的に言語でやり取りをしようとする。自分の興味関心のある話題では、自ら積極的に話しかけてくることもあるが、都合の悪い話題になると、しゃべらないことが多い（自分が悪いことをして注意された時など）。
好きなこと	カフェラテやコーヒーを飲むこと。サンドイッチやお寿司を食べること。NHK「おかあさんといっしょ」をテレビやパソコンでみること。いつも持っているビニールを口元に当てること。公共交通機関（電車やバス）を利用して商業施設やカラオケに行くこと。
運動面	運動を目的とした活動への参加はあまりすすまない様子。体のバランスはあ

平成 30 年度兵庫県児童発達支援管理責任者等研修 事例
大切な語句や文章に赤線を引いてください。
郵送の必要はありませんので、各演習初日にご持参ください。

	まりよくなく、キャッチボールなども苦手。本人もわかっているので参加については消極的。好きな外出などをするために、長時間歩くことなどはできる。 手先も比較的不器用なため、細かな手作業については苦手意識がある。
対人関係	自分の好きな話題などについては積極的に話しかけたりする様子が見られる。特に大人との関係性については、依存的になりやすいようで、自分の思い通りにならないと表情が陰しくなり、無言になる、着ている服を破る・頭を何度も床に打ちつけるなどの行為が見られることもある。

発達検査 WISC-IV

全検査IQ（FSIQ） 41
言語理解指標（VCI） 53
知覚推理指標（PRI） 45
ワーキングメモリー指標（WMI） 54
処理速度指標（PSI） 50

検査時の評価

精神発達遅滞が認められる。検査時は、全般的に簡単な課題については意欲的に取り組み、表情もよいが、正答できない課題や難しい課題になると、急に表情が陰しくなり、うつむいて取り組もうとしないなどの様子が見られた。また、具体的な質問には答えることができるが、抽象的な概念を説明することが難しい、わからない時に頭を机に打ちつけるなどの様子から、自閉症スペクトラム障害の特徴も見られた。

本人及び家族の強み(ストレングス)と、本人及び家族の困っていること

整理番号 _____ 事業所名 _____ 氏名 _____

「演習:個別支援計画の作成 事例概要」から読み取れる、本人及び家族の強み(ストレングス)と、本人及び家族の困っていることを箇条書きで記載ください。

1 本人及び家族の強み(ストレングス)

本人の強み

家族の強み

2 本人及び家族の困っていること

本人の困っていること

家族の困っていること

※10月29日(月)までに、案内に記載している宛先に郵送してください。締切を過ぎた場合、受講継続できません。

上記内容について確認しました。

申し込み責任者氏名 _____ 印

課題（ニーズ）の整理表

整理番号

事業所名

氏名

No.	発達ニーズ・意向等の把握 ※本人・家族の立場に立ち、本人・ 家族の願いを考えて記入 【主観的な思い】	初期状態の評価 （利用者の状況・環境の状況） ※本人・家族・環境の状況を事実 に基づいて記入 【客観的な事実】	支援者の気になること ・推測できること （事例の強み・可能性） ※支援者から見た推測・予想・見立 てを記入 【専門的視点】	解決すべき課題 ※左記の記述から見える本人・家族 の課題・支援の方針を記入 【専門的視点】
発達支援	・「誰」のニーズかを明確にして記載することがポイント ・保護者のニーズと子どものニーズを混同しないように、分けて整理する	・聞き取り調書、基本情報、アセスメント票等（今回の場合は事例概要）に記載されている情報から、左記に挙げたニーズに該当する事実を抽出する ・「できていること」と「できないこと」に加えて、「部分的にできる」「次のステップ（発達）への芽生えが見える」ところも見つけていく ・子どもの特性・発達段階、環境面（関わり方も含む）の状況など ・参考とする書類に、すでに記載者の主観が入っている可能性にも留意する	・「支援者が気になる」等と思う根拠を伝える（特性や環境面から生じる問題、誤学習などの原因の推測等） ・強みに注目し、ポジティブにとらえることで可能性につなげる ・障害特性や家族像、地域資源等の一般的なイメージから推察される「強み」に留めず、支援者の視点で具体的な可能性を探り記載する	・解決すべき課題の主語を明確化することでどこにアプローチすべきかが定まる ・苦手さの克服ではなく、強みを伸ばす、困り感を改善するという観点から考える ・子どもの発達に応じた次のステップへの援助とともに、二次障害の防止や自己肯定感の育ちに繋げる視点を持つ ・ここで挙げられた記載内容が、「個別支援計画」の具体的な到達目標となりうる
家族支援	・子どもの発達ニーズ（言葉にできない思いや成長したいという願い）をていねいに読み取っていく事が大切			
地域連携				

※記入については、平成30年度兵庫県サービス管理責任者研修【共通講義】「サービス提供のプロセスと管理」での学びも一緒に参考としてください。

1枚で収まらない場合は頁を増やしてください。

また、提出については、案内に記載している宛先に 10 月 29 日(月)までに郵送してください。締切日を過ぎた場合は、受講継続できませんので、ご注意ください。

課題（ニーズ）の整理表

整理番号 _____ 事業所名 _____ 氏名 _____

No.	発達ニーズ・意向等の把握 ※本人・家族の立場に立ち、 <u>本人・家族の願いを</u> 考えて記入 【主観的な思い】	初期状態の評価 （利用者の状況・環境の状況） ※本人・家族・環境の状況を <u>事実に基づいて</u> 記入 【客観的な事実】	支援者の気になること ・推測できること （事例の強み・可能性） ※支援者から見た <u>推測・予想・見立て</u> を記入 【専門的視点】	解決すべき課題 ※左記の記述から見える本人・家族の課題・支援の方針を記入 【専門的視点】
発達支援				
家族支援				
地域連携				

※記入については、平成30年度兵庫県サービス管理責任者研修【共通講義】「サービス提供のプロセスと管理」での学びと、作成時の留意点(例)を参考としてください。
1枚で収まらない場合は頁を増やしてください。また、提出については、案内に記載している宛先に 10 月 29 日(月)までに郵送してください。締切日を過ぎた場合は、受講継続できませんので、ご注意ください。

上記内容について確認しました。

申し込み責任者氏名 _____ 印